

京都府図書館等連絡協議会実務研修会（北部会場）概要

テーマ：「高齢者・障害者サービス」

演題：「公共図書館と少子高齢化」

講師：京都橘大学 健康科学部 作業療法学科 教授 小川 敬之 氏

会場：宮津市福祉・教育総合プラザ 第2コミュニティルーム
(宮津シーサイドマート Mipple 3階)

日時：令和元年11月15日(金) 13時30分～16時

参加人数：20名

概要：少子高齢化が進む現代、府内でも同じ状況であり、特に府北部ではその傾向が顕著である。従来から図書館は子ども向けのサービスを拡充してきたが、昨今はさらに、高齢者向けサービスについても求められる時代になってきた。その中でも特に認知症を発症している人への対応は急務とされている。

子ども向けサービスについてはこれまでの実践の蓄積があり、図書館職員自身が辿ってきた経験もあって対応することは困難ではなかった。しかし、高齢者や障害者への対応、そして特に認知症については図書館職員の多くが手探り状態で「何もわからない」レベルではないかと考えられる。まずは特に認知症を知ることが必要である。

認知症患者は、自分の認知障害を自覚し、その不安と困惑の中にいる。このような状況を理解して、図書館として出来ることを考えたい。

一つは認知症を正しく理解するための情報提供で、誤解や偏見なく地域社会が受け入れることができるよう、正しい情報を伝えることであり、特に子どもへの情報提供が重要である。

二つ目は家族の孤立を防ぐために交流する機会をつくることであり、図書館にはそれが可能である。

三つ目は認知症発症者も一人の人間として、他の利用者と同様に読書機会を提供することである。来館が困難な人には移動図書館や配送などのアウトリーチを図っていくことも必要である。

以上、作業療法士の視点から、図書館としてできる役割を示した。今後は各館での実践を重ね、その成果が共有されて活用されていくことを期待したい。